



たねをまこう



みどりのゆび

モーリス・ドリュオン 作 安東 次男 訳 岩波書店 953-ド

チトという男の子は学校へいかずに、庭師のムスターシュおじいさんから土のことや、花のことをおしえてもらいました。そのときに、チトはじぶんが種にさわると花がさく、ふしぎなおやゆびをもっていることがわかります。チトはそのゆびをつかって、ミルポワルの町じゅうに花をさせました。

かにむかし

木下 順二 文 清水 崑 絵 岩波書店 E-シ

むかしむかし、かにがはまべに出ると、ひとつぶのかきのたねがおちていました。かにはかきが大いすきなので、そのたねをまいて、まいにちみずをかけたり、こやしをやったりしていました。かきのたねは芽をだし、やがておおきな木になり、たくさんのみをつけました。かきのみがうれたので、かにはおおよろこびでかきの木にはいのぼりますが、おちてしまいます。すると、山のうえから一ぴきのさるがかけおりてきました。

みしのたくかにと

松岡 享子 作 こぐま社 913-マ

ある日、おばさんが台所をそうじしていると、黒い小さなたねがひとつぶでできました。にわにまいてみようと土をほりおこしていると、近所の男の人がとおりがかりました。おばさんがたねをみせると、それはあさがおのたねだとおしえてくれました。つぎに近所の女の人がとおりがかり、おばさんがたねをみせると、これはすいかのたねだといいます。おばさんは、あさがおでもすいかでも、どっちにしてもたのしみだと思いました。

そらいろのたね

なかがわ りえこ 文 おおむら ゆりこ 絵 福音館書店 E-オ

ゆうじが、もけいひこうきをとばしているとき、きつねがひこうきをちょうだいといってきました。ゆうじはひこうきと、きつねのたからもののそらいろのたねをとりかえます。いえにかえったゆうじは、にわにたねをうめました。つぎのあさ、つちのなかからまめぐらいのそらいろのいえがでてきました。

みどりいろのたね

たかどの ほうこ 作 福音館書店 913-タ

まあちゃんたちのクラスでは、はたけにたねをまくことになりました。まあちゃんがたねをもらおうとするとせんせいが、くちのなかのものをだしなさいといいました。くちから出したのは、みどりいろのあめだまです。まあちゃんのはたけに、いつつのたねと、うっかりみどりいろのあめだままでうめてしまいます。

エディのやさいばたけ

サラ ガーランド さく まき ふみえ やく 福音館書店 E-ガ

エディはじぶんのはたけをつくるために、ママといっしょにたねと、つちと、うえきばちをかいました。エディはえんどうまめといんげんのたねをまき、じょうろでみずをあげました。もっとたくさんたねをまきたくなったエディは、ヨーグルトのカップやあきかん、ふるいくつにもうえてみることにします。

犬になった王子 チベットの民話

君島 久子 文 後藤 仁 絵 岩波書店 E-ゴ

おおむかしのチベットのプラ^{こく}くに、アチョという^{おうじ}王子がいました。国には、ヤクや^{ひつじ}羊の^{ちち}乳と^{にく}肉のほかに、なにもたべものはありません。こくもつのタネがある、といういつたえをきいた^{おうじ}王子は、^{やま}山の^{かみ}神のリウダさまのところへでかけます。九十九の^{きゅうじゅうきゅう}山をこえ、九十九ばんめの^{かわ}川のみなもとの^{たき}滝をたずねると、^{やま}山の^{かみ}神があらわれました。神は、^{かみ}蛇王^{へびおう}がタネをもっているとおしえてくれました。